

---

## 「ネットワークゾーン」を使用する場合の電子リソース管理

---

### はじめに

Almaのネットワーク環境では、電子リソースは、「ネットワークゾーン」で一元的に管理することも、所属機関の「機関ゾーン」でローカルに管理することもできます。Almaは両方のモデルに対応しており、コンソーシアムは自分たちの機関におけるガバナンスやライセンスの要件に最も適したアプローチを選択することができます。

ベストプラクティスとしては、共有電子リソースを「ネットワークゾーン」で一元的に管理することが推奨されます。このモデルでは、電子コレクションおよびポートフォリオは、通常「コミュニティゾーン」から「ネットワークゾーン」に移動された時点で有効化および維持され、「[目録ネットワークグループ](#)」を通じて所属機関が利用できるようになります。「[目録ネットワークグループ](#)」は、各リソースへのアクセス権限を持つ機関（および該当する場合は、図書館やキャンパス）を管理します。これにより、AlmaやPrimoで正確な検索結果が表示されるようにし、OpenURLリゾルバーを介した正しいフルテキストアクセスを実現します。

所属機関は、例えば、リソースが単一機関のみを対象にライセンスされている場合や、コンソーシアム契約においてローカルな例外となる場合など、自分たちの機関の「機関ゾーン」内で電子リソースを管理することもできます。Almaは、このローカル管理に全面的に対応しています。ただし、重複を避け、一貫したアクセスを徹底し、継続的な保守を簡素化するため、「機関ゾーン」ではローカルな例外のみを管理し、コンソーシアム契約や共有リソースについては「ネットワークゾーン」で管理し、所属図書館と共有することを推奨します。

このハイブリッド型のアプローチにより、ネットワークレベルでの一元的な管理と一貫性が徹底されます。同時に、必要に応じて各機関固有の電子リソースに対する柔軟性も維持されます。

ワークフローとプロセスについて詳しく解説したウェビナーについては、[目録ネットワークグループを使用したネットワークゾーン内の電子リソースの管理（2024年6月18日）を参照してください。](#)

---

### 関連情報

- [コンソーシアム向けリンクリゾルバツール](#)
- [NZにおける電子リソースの管理：ユーザー設定とプロキシの設定](#)
- [ネットワークゾーンから電子資源への配布アクセスの設定](#)
- [キャンパスレベルでのディスプレイロジックルールの定義](#)
- [表示ロジックルールの設定](#)
- [一般電子サービス](#)
- [ネットワークゾーンでのフルフィルメント情報設定](#)
- [完全にフレキシブルな設定によるシングルアクティベーション - コンソーシアム](#)
- [EasyActive設定によるシングルアクティベーション - コンソーシアム](#)